

# 人出会い 人トーク

## interview



医療法人辰川会 山陽病院  
外科医

橋本 慎二さん

福山市野上町2-8-2  
☎084-923-1133  
<https://www.sanyo.or.jp/sanyo>

### 慢性腎不全に選択肢は3つ 腹膜透析の普及に尽力する

「慢性腎不全の治療法には、血液透析と腹膜透析、腎移植という三つの選択肢があることを知ってほしい」。一般的なのは医療施設に週三回ほど通う血液透析だが、腹膜透析についても丁寧の説明する。「全ての治療法を提示した上で患者と家族、医療者が話し合い、最善の治療法を選ぶことが大切」

腹膜透析には、カテーテル（チューブ）を腹部に埋め込む手術が必要となる。「手術後はカテーテルを通して透析液を注入し、一定時間ためることで血液を浄化する。日々の治療は患者が自宅で行うため、腹膜透析が始まる前に一定期間入院して、手順を確実に覚えてもらう」

自宅での治療は一日かけて行うか睡眠中に行うかを、患者がライフスタイルに合わせて選ぶ。通院は一カ月に一回程度と、血液透析と比べ負担が軽くて済む。

辰川会に登録している透析患者は約三五〇人で、そのうち腹膜透析をしているのは七人。橋本医師は一認知度を上げたことで、日本腹膜透析学会の連携認定医になった。19世紀後半に始まり、確立されて六〇年ほどの歴史がある治療法だが、普及はこれから。「今後、研さんを積んで腹膜透析に貢献したい」と話す。

愛媛県出身の四八歳。広島大医学部の消化器移植外科で学んだ。「腎臓が悪くなった場合に、生命予後が最も良いのは腎移植。日本では生体移植がほとんどで、脳死移植の数はまだ少ない。特に若い人には移植を勧めたいが、そのためにはドナー登録の必要性も訴えていきたい」



透析液(右)と腹腔(ふくくう)カテーテル(左)

オスズメの本  
啓文社  
SINCE 1931  
BOOK  
Selection

「青天」



著/若林正恭 出版社/文藝春秋 1,980円(税込)

お笑いコンビ「オードリー」の若林さんの処女小説。渾身(こんしん)の作という触れ込みは、だてではありません。文系の私にとってアメリカンフットボールという競技はなじみが薄く、「かの国の国技」レベルの知識しかないので、作中のアメフト用語は要領を得ませんが…。

主人公・中村昂の、背が低いという理由で付けられたあだ名「アリ」からして、もう昭和のスポ根小説の匂い、もとい、臭いがプンプン。「万年二回戦止まり」の屈辱、汗と根性、そして若さゆえの無知、スポーツにのめり込む者特有の獷猛(どうもうさ)。

「アリ」のタックルが、ライバルへの執念が、汗とパワーで迫る試合へと至り、スポーツ環境に身を置かない読者もストーリーに引き込まれます。

熱きスポーツと青春に、全存在でぶつかる高校生の青春小説。話題の本書、ぜひ一読を。

(啓文社ポートプラザ店 井戸 佳子)